

第6回 共に安心して暮らせる 京都デザインフォーラム さまざまなバリアをこえて 共に生きる社会をめざして

障害を持つ人や、さまざまな立場の人とともに、
話し合しましょう！
バリアをこえて、共に生きることができる社会
づくりについて、みんなで考えたいと思います。

2019年
1/27(日)
12:50~16:30
(開場12:00)
故郷の家
雲史ホール

***会場** 「故郷の家」雲史ホール (地図は裏面へ)
京都市南区東九条南松ノ木町47
駐車場なし 近辺にコインパーキングあり

***参加費** 500円 (資料代)
※手話通訳・要約筆記・点字資料の必要な方は
1月17日までにお知らせください。

- *主催** 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会
(事務局：南区東九条松田町28 メゾングラス京都十条101 日本自立生活センター気付
TEL: 075-671-8484 FAX: 075-671-8418 E-mail: jcil@cream.plala.or.jp)
社会福祉法人京都府社会福祉協議会
- *後援** 京都府 (申請中)・京都市・京都新聞社会福祉事業団・NHK京都放送局 (申請中)

プログラム

- 12:50 開会 あいさつなど
- 13:00 落語家 桂福点氏の講演
「障害を表現しながら共に生きる」
- 14:10 木津川ダルク代表 加藤武士氏の実践報告
「ダルクの活動を通して地域社会のつながりについて考える」
- 14:40 コメンテーター 牧ローニさんからのコメント
「地域社会がつながっていくキーワードを見つけたい」
- 15:00 休憩と移動
- 15:15 グループに分かれて話し合い
(それぞれの立場から地域社会のつながりについて語り合う)
- 16:15 各グループからの報告
- 16:25 あいさつ
- 16:30 閉会



桂福点氏

<桂 福点 (かつらふくてん) 氏>

本名：柘川明。1968年 兵庫県川西市生まれ。上方落語協会会員。先天性緑内障のため中学生の頃に視力を失ったが、子供の頃から音楽に親しみ、1986年大阪芸術大学に入学。音楽療法を研究し、卒業後、バンド「お気楽一座」を結成。1996年 桂福団治師匠に弟子入りし、古典落語を学びながら独自の音楽漫談や「お気楽一座」の活動にも取り組む。

2009年9月、師匠より「桂福点」の名前をもらい、現在、上記の活動と共に、音楽療法士として診療所、作業所等でユニークな音楽療法もおこなう。また「一般社団法人お気楽島」理事長として、大阪市東淀川区淡路に生活介護施設「お気楽島」を開設、さまざまな理由で社会に出て行きづらい方々の集いの場・創作の場として利用してもらっている。過去に出演した番組—NHK総合テレビ「ぐるっと関西お昼前」「バリアフリーバラエティ」「24時間テレビ2016」など多数。

<加藤 武士氏>

特定非営利活動法人 アジア太平洋地域アディクション研究所 (NPO法人アパリ) が運営する木津川ダルク (Drug Addiction Rehabilitation Center) 代表。「ダルク」は薬物依存症者の当事者が当事者を支援する施設で、薬物使用の経験者がスタッフを担っている。自助グループの活動を通じて「孤立化」を防ぎ、回復を手助けしている。

<牧口 一二氏>

1937年大阪市生まれ。1才の頃ポリオにかかり「障害者」の資格を得る。6才の春、母におぶわれて小学校に出向くが、「空襲の時に危険」と入学を断られる。敗戦後、また母におぶわれて学校に行くと「お待たせしました」と3年遅れの1年生。10才 (2年生) の夏休み、父が松葉づえを買ってくれた。夢中で立ち上がり、歩くこと・階段の昇り降りを覚える。2学期から1人で通学できるようになる。以後、60才まで松葉づえ人生、歩行歴50年、免許皆伝の腕前に。高校を卒業後、大阪美術学校 (大阪芸大の前身) デザイン科を卒業するも全く就職できず (1年半に54社)、社会への扉開かず。2年間の精神的孤立状態。美校を卒業後4年で4人の学友が共同経営のデザイン会社を設立。その会社に転がり込む (やっと26才にて社会へ)。この体験から仕事の傍ら障害者運動に参加。駅にエレベーターの設置要求などバリアフリーを広げる。学校巡りをして障害者のイメージチェンジを試みる。60才から車いす。



「故郷の家」雲史ホール

京都市南区東九条南松ノ木町47

※駐車場はありませんのでご注意ください。近辺にコインパーキングはあります。

・地下鉄 九条駅 徒歩15分

・市バス 九条河原町 徒歩10分